

来ぶらり61

踏みあと

図書館長 小谷正博(理学部教授)

漱石の「三四郎」の始めのほうに、大学生になった三四郎が図書館に行くところがある。友人の与次郎に「これから先は図書館でなくっちゃ物足りない」といわれたことである。大学の薄暗い、天井の高い図書館に入ると、しんと静まり返った向こうにうつむいて読みふけている人々の姿がほの見える。

「三四郎は学問の世界は静かで深いものだと考えた」とある。

わたしも大学に入ったとき、同じ気持ちを味わった。書架を埋めつくした何十万冊の分厚い背表紙を見たとき、これをどうやって読むのだろうか、と絶望に近い気持ちになった。深い森のなかにひとり置き去りにされたような気持だったのをおぼえている。

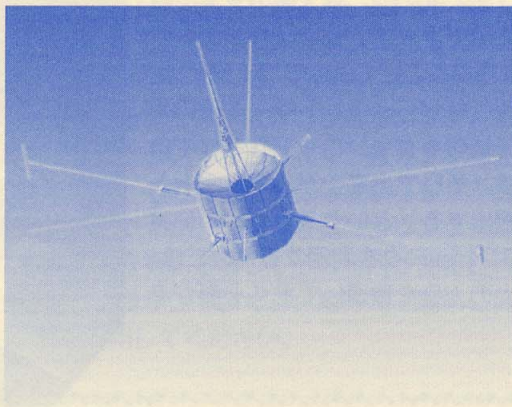
のちになって、この「深い森」にじつは無数の踏み跡がついているのだということ

を知った。それは文献の間に張りめぐらされた「引用」(あるいは参考文献)である。引用をたぐってゆけばこの森をどこまでも歩いてゆくことができる。

いま、情報化時代である。そして誰もが情報の発信者。この情報の洪水の中で必要

な情報にどうやってめぐりあうかが大問題である。実はこの「引用」は情報を発信するひとりひとりが参加してつくってゆくユニークな情報検索システムなのである。誰にも引用されない文献は朽ちてゆき、自然に

淘汰される。コンピュータ時代にも、多分このシステムは変わらずに受け継がれてゆくだろう。先人の知恵に脱帽。



大学図書館の情報

コンピュータ利用閲覧室

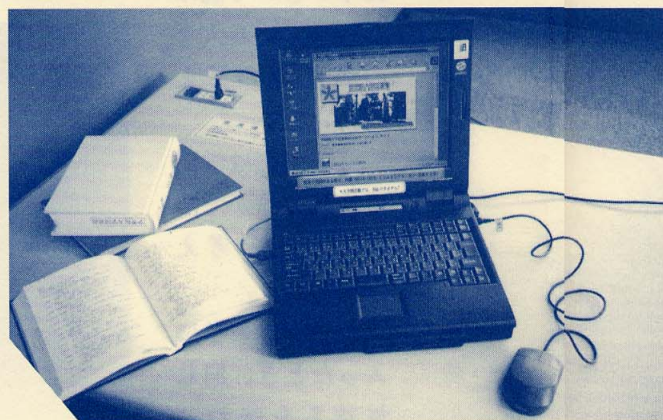
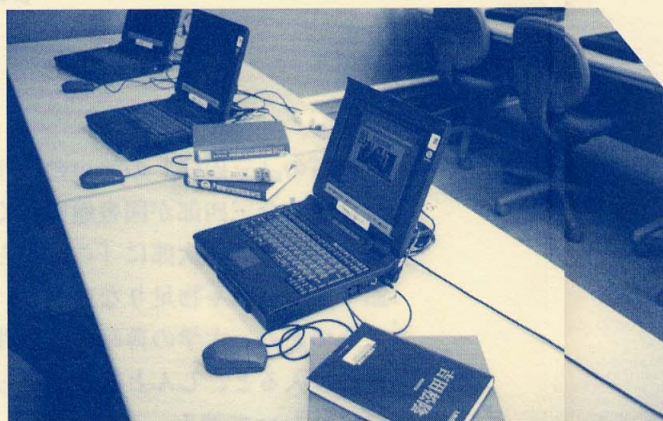
(総務課情報システム係 中村丈夫)

CD-ROMネットワークシステム

コンピュータ利用閲覧室

大学図書館の3階に昨年度からコンピュータ利用閲覧室が開設されました。第1と第2コンピュータ利用閲覧室との2部屋があり、これらは利用者がレポートや論文の作成、文献検索等を行う際に、図書館内の資料を閲覧しながら大学計算機センターの実習室に行かなくても、館内でコンピュータを利用していろいろなことができるように設置されました。

このコンピュータは大学のネットワークに接続されていますので、大学所蔵の資料の検索はもちろんのこと、インターネットを利用して国内の他大学の所蔵や各教育・学術研究機関の資料なども検索閲覧できます。さらに、国外の、つまり全世界へもアクセス可能なため世界中の大学や研究機関の資料検索も可能です。これらのほとんどはインターネットのWWW (World Wide Web) で公開されていますので、ブラウザ (Web閲覧ソフト: Netscape, Internet Explore等) を利用して、検索コマンドを知らなくても資料の検索や多種多様な情報を、簡単に手に入れることができます。また、学生間や先生との連絡には、インターネットメールを利用します。もちろんこのメールは全世界の幾千万ユーザとも送受信が可能ですので、他大学の友人や海外の知人との連絡などに活用できます。他には授業のレポート提出などにメールを使用することもあります。例えば、図書館で借りた資料を閲覧しながら、ネットワーク上の情報を検索収集し、それらの情報をダウンロードなどして自分のレポートに役立てます。そして出来上がったレポートはそのまま電子メールで提出する。ということが簡単に実現してしまいます。このコンピュータを利用するためには、大学計算機センターで個人のIDを取得しておく必要があります。



第1コンピュータ利用閲覧室

第1コンピュータ利用閲覧室は座席が42席あり、そのなかの30席には情報コンセント (ネットワークに接続するためのもの) と電源コンセントが設置されています。ここではノート型パソコンを自分で接続して利用します。ノート型パソコンは図書館1階のカウンターで「ノート型パソコン利用申込書」に必要事項を記入し、学生証と一緒に提出すると借りることができます。このパソコンは現在20台用意しています。今後は利用頻度等を考慮した上で、増やしていきたいと計画しています。また、この部屋はパソコンを利用しない時は、通常の閲覧席としても利用できます。

最近では辞典や百科事典などが電子媒体で出版されることが多くなってきました。大学図書館では、これまでCD-ROMを閲覧するために、パソコンを1台用意してスタンドアロンでその利用に供してきましたが、昨年度から学習院情報化推進事業の一環として、このCD-ROMネットワークシステムの導入に向けて検討し、サーバーの構築などを行ってきました。今年度は実験的にクライアントである2台のデスクトップ型パソコンを大学図書館2階に常設し、**学内ネットワークを介してサーバと接続し、数種類のCD-ROMソフトを利用**できるようにします。これによりこれまでのように自分でCD-ROMソフトをパソコンにセットして閲覧するといった煩わしさから開放されます (図書館はチェンジャー利用)。カウンターに行くこともなく、自由にいつでも館内のパソコン (2台) で、**インターネット閲覧ソフト**を利用して数種類のソフトをメニューの中から選択し利用できます。提供するCD-ROMソフトは、国立国会図書館雑誌記事索引、同蔵書目録のJ-BISC (各カレント版)、大宅壮一文庫雑誌記事索引ほかを予定しています。現在 (3月上旬時) このシステム全体を構築しているところですが、ゴールデンウィークのころにはみなさんに利用してもらえるようになると考えています。また、近い将来には学部図書室や各研究室などのさまざまな場所からも利用できるようにしたり、提供するソフトも随時増やしていきたいと計画しています。ご期待ください。

自動貸出機利用のすすめ

昨年の夏から1階開架図書室 (カウンター脇) に導入した自動貸出機は約半年を経過し、利用者のみなさんにはその存在も定着したのではないかと思います。カウンターに行って手続きをする煩わしさやそこで待たされるということもなく、自分で手続きを済ませてしまうという手軽さが好評を得ているようです。その貸出機が今年度からもう1台追加されます。設置個所は1台目と同様に1階開架図書室ですが、この**2号機はカウンターから離れたOPAC検索機の側**になります。書架にも近く1号機にも増してその利用が期待されています。操作方法は簡単です。表示される指示に従って操作していくと、短時間で簡単に貸出手続きが行えます。利用されたことのない人も、ぜひ利用してください。

第2コンピュータ利用閲覧室

第2コンピュータ利用閲覧室は、第1と同様に個人利用の他に**グループでの利用を主な目的**としています。**コンピュータを利用した小人数のゼミやクラブ活動等に、または私的なグループ活動などに利用**できます。座席は9席で、5台のデスクトップ型パソコンが常時設置されています。他の4席は第1コンピュータ利用閲覧室と同様にノート型パソコンを借用しての利用が可能であり、また、自分のパソコンやワープロ専用機などの電子機器を持参しての利用もできます (この場合はオフラインの利用)。グループ利用の場合は予約が必要で、1回最大2時間までです。予約は1ヵ月前から1週間前までに図書館1階のカウンターで受け付けます。

立教大学図書館との館内閲覧利用サービス開始!!

大学図書館の本館が 学生証または身分証明書で利用できます



求める資料が本学になく、他大学図書館を利用する場合は、本来大学図書館発行の「紹介状」が必要です。しかし、**本学図書館と立教大学図書館の間では、「紹介状」なし、学生証または身分証明書の提示による館内閲覧相互利用サービスを、1998年4月1日より正式に開始しました。ぜひご利用ください。**

なお、このサービスは立教大学図書館の本館に限ります。学部、研究室の図書室では原則として行いません。また、利用当日確実に資料を閲覧したい場合は、事前に本学大学図書館2階レファレンス・カウンターをとおして予約をしてください。

他の大学図書館を利用する場合は、いままでどおり大学図書館発行の「紹介状」が必要です。

資料の多様化・多量化を迎えた今日、利用者の求める資料が本学に所蔵されていない場合でも、コンピュータを使って瞬時に所在調査ができるようになってきています。それにともない図書館間のネットワーク化が拡大し、図書館資料の共有化も進んでいます。

「必要な資料が見当たらない」、「学内に所蔵されていないようだ」など、不明な点は遠慮なく大学図書館2階レファレンス・カウンターにご相談ください。

(運用課長 越川孝昭)

■立教大学図書館の開館時間

平日 9:00~21:00

土曜日 9:00~17:00

■立教大学図書館ホームページ

<http://opac.rikkyo.ac.jp/>

■利用上の注意

- (1)利用内容：館内閲覧のみ、個人への館外貸出しはいたしません。
- (2)利用方法：立教大学図書館の手続きに従い、マナーを守ってご利用ください。
- (3)閉架書庫資料の請求受付は、閉館30分前で終了いたします。
- (4)長期休暇中等の開館時間については、本学の大学図書館2階レファレンス・カウンターでお尋ねください。

来ぶらり No.61 1998年4月1日発行

発行責任者：小谷正博 編集委員：藤田美佐子 石井博幸

学習院大学図書館 〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1 ☎03 (3986) 0221